

スロープの不具合解消をしない無責任・不誠実な会社に こだわりをもって、ねばりづよく、不具合解消を要求する!

車いす用スロープをN700Sに使用する時に、「スロープに不具合（スロープのフックが浅く掛かるためズれて外れる）が発生すること」と「スロープの不具合を承知で何も対策をしない会社の対応」について、情報（かんさい回覧板No. 87）で明らかにしました。

本部と地本は、会社の無責任・不誠実な対応に対して、こだわりをもって、ねばりづよく、スロープの不具合解消を、以下のように繰り返し要求しました。

本部は「安全対策についての経営協議会」において、「ホームと車両の段差・隙間解消」と「スロープの不具合解消」を本社に要求しました。

○本部「新幹線ホームの段差・隙間縮小対策は、東京駅（16～19番線の11号車乗降口にスロープ設置と転落防止用ゴム板設置）以外の駅はどうするのか」

●本社「今のところ対策はない」

○本部「スロープのフックの掛かりが浅いためスロープが外れて線路に落下する恐れがある。リスク排除、安全最優先と考えるなら、ホームと車両の段差・隙間をなくすか、スロープの不具合を解消するかである」

●本社「ちゃんと使えば安全だと検証されている」

○本部「会社は不安全を承知でスロープを使用している。何かあったら会社の責任である」
地本は「経営協議会」において、「スロープの不具合解消」を関西支社に要求しました。

○地本「会社は実態把握に努め安全最優先を凶るとしている。営業課長はフックが掛からないことは承知しているのか」

●支社「フックが掛かりにくいことは知っている」

○地本「掛かりにくいのではない。掛からないからスロープがズれる」

●支社「スロープの床面がホームと車体側にきっちりと接していれば安全は確保できる」

○地本「現場に視察に来て実態を把握すべきだ」

●支社「営業課はスロープの状態を確認している。ズれることを認識している」

○地本「会社はズれることを認識していても、安全上問題ないとする対応を確認する」

スロープの不具合を担当者の取扱いにすり替えず、早急に不具合を解消せよ!

現行のスロープは、2020年6月に新幹線各駅に配備されました。しかし、スロープとホームの接する部分に段差があり、車いすの前輪が引っ掛かるという不具合がありました。私たちのこだわりをもった、ねばりづよい要求によって、2021年11月に不具合部分を改良したスロープが配備されました（その時はN700Sは営業列車として走行していません）。

その時も会社は、スロープの不具合について、今回と同様に「安全上問題ない」として担当者の取扱いにすり替えました。担当者は前回の不具合の時と同様に、車いすをご利用されるお客様の安全確保のために、今回は手や足でスロープを押さえてスロープがズれるのを防ぐ努力をしています。しかし、会社は不具合をカバーするため努力している担当者を何ら報いることなく、逆に担当者に責任を押し付けています。

会社はスロープの不具合を担当者の取扱いにすり替えず、早急にスロープの不具合を解消すべきです。